

鎮守の森だより



NPO 法人 社叢学会ニュース
第 10 号
2004年7月 14 日

平成 16 年度通常総会・シンポジウム・研究大会 熱田の森に約 200 名が集う

平成16年度の通常総会並びに大会は、去る5月30日(日)に名古屋市熱田区に鎮守する熱田神宮の文化殿を会場に開催され、シンポジウムや研究発表には一般市民も多数参加し、盛会裡に終了しました。

この日、午前10時より理事会を行い、新役員を選任・定款の変更等が決議された後、午前11時より総会を開催。上田正昭社叢学会理事長挨拶、小串和夫熱田神宮宮司挨拶の後、議長に米山俊直理事(前大手前大学学長)が選任され、正会員総数313名中、198名(委任状含む)の出席者により、5項目からなる議案を審議し、全ての議案が承認されました(次ページ参照)。会場には「慟哭・豊穰・瞑想の森」と題して会員で人形作家緋月真歩氏の作品が展示され、郷愁を誘う作品に参加者は心を和ませていました。

なお役員の任期満了に伴い、理事長に上田正昭氏(京都大学名誉教授)を再任、副理事長には上田篤(京都精華大学名誉教授)・菌田稔(京都大学名誉教授)・菅沼孝之(元奈良女子大学教授)の3氏が再任され、新たに副理事長として進士五十八(東京農業大学学長)・林進(岐阜大学名誉教授)の両氏が選任されました。

午前11時30分から昼食をはさんで午後3時15分までは基調講演とシンポジウムが行われ、基調講演では

畠山重篤氏(牡蠣の森を慕う会)が「森は海の恋人～眺める森から関わる森へ～」と題して森と川と海のつながりについて講演された。引き続き行われた同テーマのシンポジウムでは、今総会において副理事長に選任された林進理事が司会進行をつとめ、パネリストとして基調講演をされた畠山重篤氏、新理事に就任した造園学・土壌学が専門の岡村穰氏(名古屋市立大学大学院教授)、人と環境の関わりを研究されている嘉田由紀子氏(京都精華大学教授)がそれぞれの立場から発言し、内容豊かなシンポジウムとなりました。

午後3時30分から5時30分までは菌田稔副理事長が司会進行をつとめ、会員による研究発表会が行われました。研究発表は1テーマごとに20分間発表し、10分間の質疑を行うという形式で、次の4テーマが発表されました(敬称略)。

沖益弘「千葉県北東部の鎮守の森におけるイチョウ等についての考察」、前迫ゆり「世界遺産春日大社とともに文化的景観を形成する特別天然記念物春日山原始林の現状と問題点」、原田多美子「神社境内地の維持・管理および組織について～大津市長等神社・石坐神社・和田神社の氏子の役割と機能を事例として～」、山越言「西アフリカ・ギニアの“精霊の森”～その保全生態学的役割について～」。

「秩父神社・ははその杜」を読む

講師 大澤 太郎
(森林インストラクター・埼玉県森づくり課)

古社・秩父神社

秩父神社は、2000年以上前に創建されたとされる関東地方でも最古の部類に入る延喜式内社の古社である。文献には西暦862年に秩父神社の記述がみられる。

祭神は、ヤゴコロオモイカネノミコト(天の岩戸を開けたとされる智恵の神)である。

左甚五郎の壁面彫刻が有名で、つなぎの龍や虎、また智恵の神ということもあつてか鼻が祭られている。

ご神木はイチョウで、これは市の木にも指定されている。

秩父神社というと夜祭が有名であるが、これは秩父神社の祭神(女神)と武甲山の神(男神)との年に一度の逢瀬を表現したものである。

神社は秩父盆地のほぼ中央に位置し、武甲山に向かい合うような形になっている。祭神を乗せた神輿が、神社から武甲山へ向かう方向に南下して町を練り歩き、御旅所までいたる。最後の団子坂を神輿が登ってゆくところがこの祭りのクライマックスである。

門前町・番場町

秩父神社の門前町にあたる番場町は、昔ながらの長屋仕立ての木造建築が並ぶ、味のある商店街である。夜祭の神輿のコースは、昔は番場町を通過していたが、その狭さのため変更された。狭い割に車通りは多く、今後は歩道を設ける、車の入れない時間帯をつくるなど、方策を考える必要がある。

番場町に並ぶ商店のうつりかわりをみると、昭和36年と平成10年では、日用品を売るような店は減ったが、カメラ屋、秩父銘仙を売る店、飲食店などは増えた。大正モダンのタバコ屋や旧家の屋敷門など、見ごたえのあるものも点在する。近年はコンクリート造などの現代建築も建てられている。

「ははその杜」

「ははそ」とはクスギ・コナラ・ミズナラなどのブナ科の落葉樹を意味する。

秩父神社社記によれば、「ははその杜」は秩父神社建立の前からあったようである。秩父神社周辺は、緯度的には暖温帯の植生と考えやすいが、実際には盆地なので冬の気温は低く、中間温帯の特徴も備えている。また、温暖化が進む前はさらに冷温帯に近かったであろうと想像できるので、ブナ類が自生していた可能性は高い。今現在の「ははその杜」の優勢樹種はケヤキで、その幹径は1mを超えるものも数本ある。

寛政年間の絵図では、神社周辺にはスギのような樹種とマツのようなもの、そして広葉樹ではないかと思われる樹種が入り混じって描かれており、当時の植生が窺える。しかし現在、拝殿の裏にはスギの30年生くらいのもが多くみられ、神社にはスギ、といった思惑によって植えられたのではと推測される。他にもメタセコイヤ、チャンチンなど、献木されたのではと思われる樹種が入り混じっているのが現状である。今後は、シラカシのような常緑広葉樹が全体的に優先樹種となり、スポット的に落葉広葉樹が入り混じった森になると考えられる。

開かれた「杜」へ

昭和41年の台風で、秩父神社は甚大な被害を被り、「ははその杜」も倒木が多くあった。その後も都市開発にさらされ、杜の面積はどんどん小さくなり、現在に至っている。

そのこともあって、現在「ははその杜」は、環境保護のため一般人は入れないようになっているが、今後はもっと地域の人々が入れるようにすることが望ましい。地域住民が森を知り、愛着を持ち、森を育て、そして後代に伝えてゆく、そのためにはまちの「読み解き」をていねいに地道に行きつづけてゆくことが大切である。
(文責：青木いづみ)

次回予告(第12回関東定例研究会)

日時：2004年10月30日(土) 14:00~17:00
場所：國學院大学・渋谷キャンパス (渋谷区東4-10-28)
!今回から会場が変わります。ご注意ください
テーマ：青垣の山
講師：千代 和芳 (松緑神道大和山)

奈良を舞台に開講

社叢インストラクター養成セミナーは、鎮守の森の樹木だけでなく、森の動植物や歴史、調査方法など幅広い知識を持つ指導者を増やし、社叢を守り育てようとの意図から昨年10月に第I期のセミナーが開催されました。今回の第II期は7月9日より11日までの3日間。受講者は第I期を受講された方々で、折からの猛暑の中、下記のスケジュールを無事終えました。

	内 容
7月9日(金)	檀原神宮 参拝 第II期日程説明 講義 神宮の森の成立について 神宮社叢の視点 実習： 檀原神宮神苑
7月10日(土)	社叢見学（マイクロバス利用） ① 奈良市中之庄町 田原中之庄天神社社叢 （ツクバネガシ林） ② 奈良市邑地町 水越神社社叢 （シラカシ林） ③ 吉野町山口 山口・高鉾神社社叢 （コジイ・スギ林） ④ 川上村粉尾(そぎお) 十二社神社社叢 （ウラジロガシ林） ⑤ 吉野町矢治 岩神社社叢 （元・タブ林） ⑥ 新庄町笛吹 笛吹神社社叢 （イチイガシ林） 奈良市西の京町 養天満宮（コジイ林）
7月11日(日)	春日大社 参拝 講義 春日大社社叢について 春日大社社叢の視点 実習 閉講式：受講証書授与・式辞・祝辞

- 5月30日に開催された総会の席上、名古屋市を中心に中部地区の活動を充実させていくために、名古屋市内に事務局を設置することが決まりました。これに伴い中部地区における定例研究会を開催することになりました。日時・場所につきましては、8月28日に真清田神社(一宮市)、10月2日に大県神社(犬山市)、11月6日に伊勢神宮(伊勢市)、平成17年2月12日に砥鹿神社(一宮町)を予定しております。
- 4月新年度がスタートして3ヶ月が経ちました。平成16年度の会費を納めていない方は、学会活動を円滑に運営するためにも会費の納入をよろしくお願い致します。

編 集 後 記

総会前の理事懇談会でのこと、U理事長が「Yくん(理事)は議長をせなあかんのを忘れとるに決まってるから、ちゃんと電話しとかなあかんでえ」。確かに3月の理事会でそう決まったからなあ。その夜、Y理事に電話。「先生、総会で議長っての覚えてますかあ?」「いえ、覚えてません!」という確信のこもったお返事にのけぞって笑ってします。う〜ん、さすがに40年来のお付き合い。重みを感じる・・・

そのY理事が事務局へ。約束の時間よりちょっと早めだったもんだから、入会パンフレットの住所訂正シールの貼り付け作業を押し付ける。「こういう作業もやっているとだんだん上手くなるなあ」だって。

かくして、諸学の権威が内職めいた仕事をやる・・・社叢学会ってすごいなあ。

(人遣いの荒い 藤岡 郁)

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区蛸薬師通堺町通西入雁金町 373 番地
 みよいビル 303 号 TEL075-212-2973 FAX075-212-2916 E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒171-0021 豊島区西池袋 2-36-1 ソフトタウン池袋 1101
 TEL03-5950-6507 FAX03-5950-5184 E-Mail shasou@macrovision.co.jp